

# 安全データシート (SDS)

## 1 製品及び会社情報

株式会社 ARIS-Tech  
東京都中央区銀座4-13-3 ACN東銀座ビル5FA  
03-6264-0899  
担当 清原  
緊急連絡先 同上  
改訂 令和2年10月8日  
SDS整理番号 000103

製品等のコード 58-66  
製品等の名称 シッププロテクト  
推奨用途 塗料等に混和させ貝類付着阻害性能を持たせる

## 2 危険有害性の要約

### GHS分類

#### 健康に対する有害性

急性毒性(経口)	分類対象外
急性毒性(経皮)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
指定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分1
指定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない

#### 物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
引火性エアーゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	区分外
酸化性固体	区分外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

#### 環境に対する有害性

水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない
絵表示またはシンボル	該当無し
注意喚起語	皮膚あれ
危険有害性情報	該当無し

※物理化学的の危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は現時点で「分類外」または「分類できない」である。

#### 注意書き

##### 安全対策

- この製品を使用するときに飲食または喫煙をしないこと。
- 保護眼鏡、呼吸用保護具、保護面、保護手袋、保護衣を着用すること。
- 粉塵、ミストを吸入しないこと。
- 取り扱い後はよく手を洗浄すること。

##### 救急処置

飲み込んだ場合	口をすすぐこと。
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息すること。
眼に入った場合	流水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを外せる場合には外して洗うこと。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと。
眼の刺激が持続する場合や気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること。	

##### 保管

直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

##### 廃棄

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に委託すること。

### 3 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物（水酸化カルシウム、酸化アルミニウム、ケイ酸）			
化学名	天然鉱石混合品（別名 船底触媒）			
成分及び含有量	①カルシウム 約0.3w/v %	②アルミニウム	③シリカ	④マグネシウム
	⑤イオウ	⑥チタン	⑦カリウム	
化学式又は構造式	①Ca(OH) <sub>2</sub>	②Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	③SiO <sub>2</sub>	④Mg <sub>2</sub> O
	⑤S	⑥Ti <sub>2</sub> O	⑦K <sub>2</sub> O	
官報公示整理番号	化審法 ①(1)-181	②設定されていない		
安衛法	①公表化学物質	②設定されていない		
CAS No.	①1305-62-0	②7732-18-5		
EC No.	①215-137-3	②231-791-2		
危険有害成分	特になし			

### 4 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息する。気分が悪いときは、医師の処置を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに皮膚を多量の水と石鹼で洗う。皮膚に刺激または湿疹が生じたときは、医師の処置を受ける。
目に入った場合	直ちに流水で15分以上注意深く洗う。
飲み込んだ場合	コンタクトレンズを着用している場合、容易に外せるときは外し、その後も洗浄を続ける。 口を充分にすすぎ、うがいをする。大量の水を飲んで体内で薄める。気分が悪いときは、医師の処置を受ける。

## 5 火災時の措置

消化剤	本品は不燃性であるので、周辺火災に応じた消化剤を使用する。 (二酸化炭素、粉末消化剤、散水、泡消化剤、乾燥砂)
使用禁止の消化剤	特になし
特有の危険有害性	特になし
特有の消化方法	風上から消化活動を行う。危険でなければ、火災区域から容器を移動する。 環境に影響を出さないよう、できるだけ流出を防止する。
消化を行う者の保護	空気呼吸器、化学用保護衣を着用し、風上から消火活動を行う。

## 6 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏洩区域は関係者以外の立ち入りを禁止する。漏洩区域に入るときは保護具を着用する。
風上から作業し、粉塵・ミストなどを吸入しないようにする。
密閉された場所の場合は、事前に換気する。
河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
海上で薬剤を使用する場合は、運輸省令の規定に適合すること。
漏洩物を乾燥砂やウエス等で吸収し、密閉できる空容器に回収する。
回収した漏洩物は後で適正に破棄処分する。
漏れを止め、粉塵の発生や拡散を防ぐ。
周辺の発生源を速やかに取り除く。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7 取り扱い及び保管上の注意

取扱時技術的対策	特になし
取扱時局所排気・全体換気	必要に応じて行う
安全取扱注意事項	すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 容器を転倒、落下、衝撃を加える、引きずるなどの扱いをしてはならない。 使用する際に、飲食や喫煙をしないこと。 取扱後はよく手を洗うこと。
接触回避	湿気、水、高温体との接触は避ける。
保管時技術的対策	容器を開封すると保管条件により本製品のファクターが変動することがあるので、なるべく早く使い切る。 早く使いきる。保管場所は清潔に保つ。
保管条件	直射日光や高温多湿を避け、なるべく乾燥した場所に保管する。容器は密閉し、冷暗所に保管する。 食料等から話して保管する。
混触危険物質	特になし
容器包装材料	ポリエチレン、ポリプロピレン等

## 8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない。	
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	日本産衛学会(2010年版)	ACGIH(2010年版)
	設定されていない。	設定されていない。
設備対策	この物質を貯蔵しないし取り扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置する。	

保護具	呼吸器保護具(防塵マスクなど)を着用する。 保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製など)を着用する。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。 長袖作業着を着用し、必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	この製品を使用するときに飲食や喫煙をしない。取扱い後はよく手を洗う。

## 9 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色	白色の固体粉末
におい	無臭
pH	アルカリ性(水と接触すると11~12)
融点	1200°C以上
沸点	—
引火点	不燃性
爆発範囲	爆発性なし
蒸気圧	データなし
蒸気密度(空気=1)	データなし
比重(密度)	2.3~2.5
溶解度	水に不溶
オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし

## 10 安定性及び反応性

安定性	通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性	特になし
避けるべき条件	水濡れ
混触危険物質	特になし
危険有害な分解生成物	特になし

## 11 有害性情報 <本品のデータがないため、水酸化カルシウムと水の混合物としてGHS分類した。>

急性毒性(経口)	データなし
皮膚腐食性・刺激性	水と接触するとアルカリ性を呈し皮膚に対し刺激性があり、鼻の内部組織や皮膚に炎症を起こす可能性があることにより区分2とした。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	人の目に対し、moderate,severe,corrosiveな刺激を示すとの記述から、区分1とした。
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	単回人呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こす可能性があることにより区分1とした。
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	長期又は反復ばく露により肺の障害の恐れがあることにより区分1とした。
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

## 12 環境影響情報

生態毒性	データなし
残留性／分解性	データなし
生物蓄積性	データなし
土壤中の移動度	データなし
オゾン層への有害性	本品はモントリオール議定書の付属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13 廃棄上の注意

残余廃棄物	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
	都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
	廃棄物処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上委託する。
	※参考 希釈廃棄法
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14 輸送上の注意

国内規制(適用法令)	
陸上規制	特段の規制なし
海上規制	特段の規制なし
航空規制	特段の規制なし
国連番号	非該当
国連分類	非該当
品名	非該当
海洋汚染物質	非該当
特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れの無いように積み込み、荷崩れの防止を着実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。

## 15 適用法令

労働安全衛生法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
化学物質管理促進法(PRTR法)	非該当
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
水質汚濁防止法	生活環境項目(施行令第三条第一項) 「水素イオン濃度」 〔排水基準〕 海域以外の公共用水域に排出されるもの 5.8以上8.6以下 海域に排出されるもの 5.0以上9.0以下 ※別途、排出基準に条令等による上乗せ基準がある場合はそれに従うこと
輸出貿易管理令	キャッチオール規制 別表第1、16項 第38類(各種の化学工業生産品) HSコード(輸出統計品目番号、2014年1月版):3822.00-000

## 参考文献

化学物質管理促進法PRTR・SDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSHI CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

※このデータは作成時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。